

## 神奈川県における「人生 100 歳時代の設計図」の取組み

神奈川県政策局政策部総合政策課

### (はじめに)

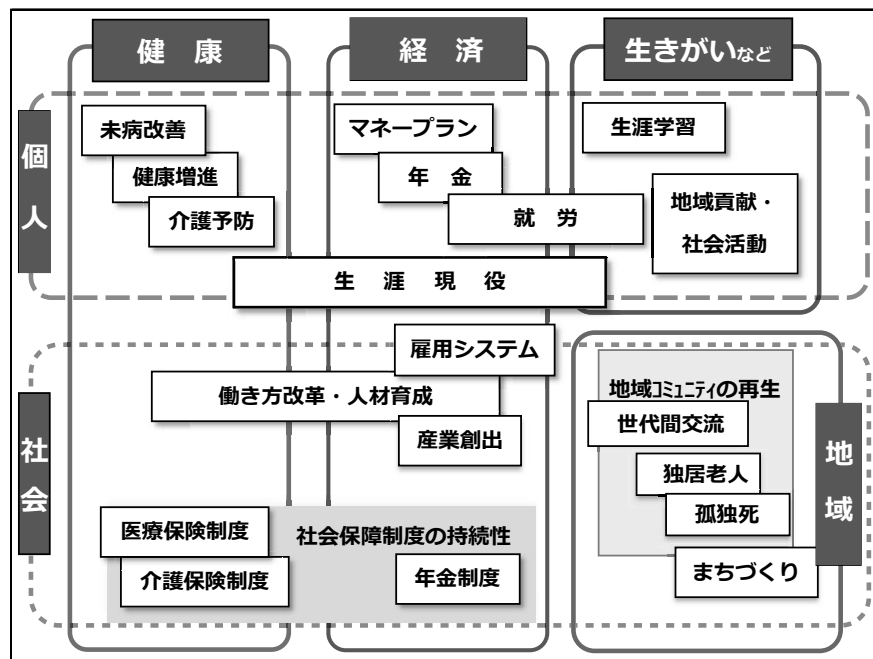
神奈川県では、健康寿命が延び、人生 100 歳時代を迎える中、県民一人ひとりが、「人生 100 歳時代」のライフデザインを描いていくことを自分のこととして、その重要性を考えてもらえるように、「意識改革」を促すとともに、市町村や大学、NPOや民間企業等と連携しながらそうした個々人の人生設計を支える「環境整備」に取り組んできている。以下、当県が最近行っている様々な取組みについて簡単に紹介することとしたい。

### 1. 『人生 100 歳時代』における課題への対応

#### (1) 『人生 100 歳時代』の課題の多彩さ

近年、『人生 100 歳時代』に関する議論が色々な主体において活発になされているが、『人生 100 歳時代』に関する個別の課題は、個々人の健康維持や経済基盤の確保ばかりでなく、それらを支える社会保障制度や雇用・教育システムの見直しに至るまで非常に多岐にわたる<sup>1</sup>（【図表 1】）。

【図表 1】『人生100歳時代』を巡る様々な問題



<sup>1</sup> 『人生 100 歳時代』における様々な課題については、神奈川県政策研究・大学連携センターの『事例調査「人生 100 歳時代」：現状と課題』（当ジャーナル掲載）の「I. 総論」を参照。

## (2) 諸課題への対応—「(a) 意識改革」と「(b) 環境整備」

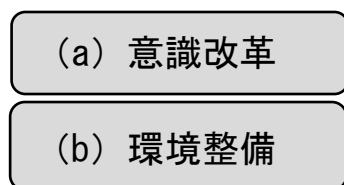
このように多岐に亘る課題に対して、まず我々が対応する上で重要となるのは、一人ひとりの「(a) 意識改革」である（【図表2】）。

人生設計については、ともすれば現役時代のことが中心となり、高齢者となった先まではあまり考えないことが多い。しかし、これだけの長寿社会となった中では、生涯を生き生きとすごすため、もっと積極的・主体的に自分自身の「人生100歳時代の設計図」を描くことが重要になってきている。

また、そうした個々人が思い描いている人生設計が実現しやすくなるように「(b)環境整備」を進めていくことが必要となる。

例えば、仮に住民が「高齢になっても、健康である限りは、働いたり学んだりしたい」と考えていたとしても、社会においてそうした活動をする受け皿が十分に用意されていなかったり、受け皿へのコーディネートが十分でない限りは、それらを実現することが難しくなるであろう。

【図表2】『人生100歳時代』における課題への対応の柱



## 2. 当県における対応（概要）

当県では、そうした意識の下で「(a) 意識改革」と「(b) 環境整備」の二つの分野について、近年様々な取組みを進めている。

具体的には、(1) 昨年度（平成28年度）は「議論の年」とした上で、主に「(a) 意識改革」をすすめるべく、人生100歳時代におけるライフデザインの大切さを、社会全体で考えてもらい、議論するために、シンポジウムやワークショップ、県民との対話の広場などを開催してきた<sup>2</sup>。また、(2) 今年度（平成29年度）は「基盤づくりの年」として、「(a) 意識改革」の分野における各種イベントを引き続き開催するだけにとどまらず、「(b) 環境整備」に向けて、県や市町村や大学、NPOや民間企業等によるネットワークを立ち上げ、必要な知識・スキルを習得する学びの場から活躍の場につながるしくみづくりの検討もしてきている。

そして、(3) 来年度は「しくみの稼働の年」として、これまで検討してきた様々な企画を実行に移していくことを想定している（【図表3】）。

<sup>2</sup> 詳細は、『かながわ政策研究・大学連携ジャーナル No.11』の p.6～9 参照。

【図表3】『人生100歳時代』一県における対応（概要）

	(a) 意識改革	(b) 環境整備
平成28年度 《議論の年》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キックオフ・シンポジウム</li> <li>・知事との『対話の広場』（8回）</li> <li>・大学生とのワークショップ（3大学）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者ヒアリング</li> </ul>
平成29年度 《基盤づくりの年》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラム（「『人生100歳時代の設計図』を考える」）</li> <li>・セミナー（「人生100歳時代」）</li> <li>・大学生とのワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かながわ人生100歳時代ネットワーク</li> <li>・学びから活動の場へつなぐしくみづくり</li> </ul>
平成30年度 《しくみの稼働の年》	<ul style="list-style-type: none"> <li>（・普及啓発（継続））</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業（「大学発・政策提案制度」）</li> <li>・協働事業（「かながわボランタリー活動推進基金21」）</li> <li>・つなぐしくみの実施（プロジェクトの実施）</li> </ul>

### 3. 平成29年度 of 取組み

#### (1) フォーラム（「『人生100歳時代の設計図』を考える」）の開催

このうち、平成29年度 of 取組みについてみると、まず、「(a)意識改革」 of 分野では「『人生100歳時代の設計図』を考える」というフォーラムを開催した。当フォーラムでは、社会人になってから学び直しをされて弁護士となった菊間千乃氏に基調講演していただくとともに知事が登壇したパネルディスカッションを行い、すべての世代で自らのライフデザインを考えること of 大切さ、現役世代から社会参加すること of 大切さなどを訴えた。

## 【開催日・場所】

平成29年10月23日 横浜情報文化センター（6階・情文ホール）

## 第一部：基調講演

弁護士 菊間千乃氏（弁護士法人松尾綜合法律事務所 所属）

## 【概要】

- ・今から「100歳になったら何をするか」というところまで考えておく必要がある。
- ・過去を振り返って自分の本質を理解した上で、自分らしい人生の目標を主体的に考えることが大切。
- ・目標を立て、具体的な行動と順序を自分でデザインし、諦めずに取り組むことが重要。

## 第二部：パネルディスカッション

「多様な生き方」をテーマに、人生100歳時代における生き方、それを支える社会のあり方などについて、議論を深めた。

## 【パネリスト】

的場康子（第一生命経済研究所 上席主任研究員）

阪本節郎（博報堂 新しい大人文化研究所 統括プロデューサー）

牧野篤（東京大学大学院教育学研究科 教授）

黒岩祐治（神奈川県知事）

## 【主な意見】

- ・複数の仕事や活動に関わるマルチライフ型人生は、人生100歳時代を生きるための究極のリスクヘッジとなる。
- ・大人世代が若者世代を応援すること、高齢者が若い世代の世話役・先生役・相談役という新たな社会的役割を担うことが重要。
- ・多様な生き方や活躍の仕方が認められる社会を目指す必要がある。
- ・若い人々や子どもたちを対象に、どのような人生を歩むべきかについて教えたり、考えさせたりすることが重要。
- ・地域社会を考えていくには、高齢者が「自分が役立っている」「孤立していない」という感覚を持つことができること、また、子どもも大人から認められているという環境をつくることが大事。

※「人生100歳時代の設計図」を考えるフォーラムの開催結果（概要）については県ホームページ（<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f534891/>）を参照。



## (2) セミナー（「人生 100 歳時代」）の開催

主に中高年齢者を対象に、複数の仕事や活動に関わるなど、マルチステージで活躍するための資格・スキルを習得するためのセミナーを開催した（県が主催し、横浜国立大学が企画・運営）。

### セミナー（「人生 100 歳時代」）の概要

#### 《未来設計》（全 5 回）

定年準備世代などの中高年齢者が人生100歳時代のライフデザインを描けるよう、様々なケースによる体験談等により、自分の強みや軸を発見し、自分が本当にやりたいたいことを見つけていく。

#### 《ベンチャー設立・運営》（全 5 回）

自ら培った知識やノウハウを活かして地域に貢献したいという意識を持っていて、起業を目指している中高年齢者を対象に、専門家が会社設立に関する基礎知識や起業成功例・失敗例を紹介することで、起業を後押しし、成功へと導いていく。



### (3) 『かながわ人生 100 歳時代ネットワーク』における検討

「(b) 環境整備」の分野については、『かながわ人生 100 歳時代ネットワーク<sup>3</sup>』において、市町村や大学、NPOや民間企業等の様々な主体とともに、学びの場から活躍の場へつなぐためのしくみづくりや地域コミュニティの活性化につながる課題解決策などの検討を進めている。

#### 『かながわ人生 100 歳時代ネットワーク』の概要

##### 1. 構成員

有識者（3名）のほか、行政（本県、市等）、大学、民間企業、NPO等から多様な主体（39団体）が参加（平成 29 年 12 月末現在）。

（※順不同）

有識者	牧野 篤 座長・ワーキンググループリーダー 東京大学大学院教育学研究科 教授、東京大学高齢社会総合研究機構 副機構長
	前田 展弘 ワーキンググループリーダー ニッセイ基礎研究所 主任研究員、東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員
	澤岡 詩野 ワーキンググループリーダー ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員
行政	神奈川県、横浜市、相模原市、横須賀市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、大和市、綾瀬市、三浦市、神奈川県労働局
大学	横浜国立大学、横浜市立大学、神奈川県立保健福祉大学、神奈川大学、関東学院大学、東海大学、松蔭大学、昭和音楽大学、星槎大学
民間	第一生命保険、横浜銀行、大塚製薬、タウンニュース社
NPO	ソーシャルコーディネートかながわ、NPOサポートちがさき、YUVEC、藤沢市民活動推進機構、さがみはら市民会議、YMCAコミュニティサポート
団体	神奈川県社会福祉協議会、神奈川県住宅供給公社、神奈川県経営者協会、神奈川県商工会議所連合会、神奈川県中小企業団体中央会、神奈川県商工会連合会、神奈川県シルバー人材センター連合会、プラチナ構想ネットワーク、UR都市機構

##### 2. 取組内容

###### ア テーマ

###### ①意識改革（普及啓発）

- ・若い世代や現役世代を対象

###### ②環境整備（しくみづくり）

- ・社会参加…高齢者と活躍の場のマッチング、コミュニティの活性化
- ・働き方…有償ボランティア（報酬が少しでももらえる働き方）の検討
- ・学び…中高年齢者の学びの機会の拡大

<sup>3</sup> 県や市町村、大学や企業、NPO等の多様な主体が情報を共有し、協働して取組みを進めていくために、平成 29 年(2017 年)6 月に立ち上げた新たなネットワーク。

## イ 取組方法

- ・フォーラムやワークショップの開催
- ・中高年齢者を対象とした専門性の高いスキルを学ぶセミナーの開催
- ・3つのワーキング部会でのしくみづくりの検討

## 3. ワーキング部会における検討内容

## 《第1部会：高齢者と子ども・若い世代との交流（多世代交流）》

リーダー：東京大学 牧野篤教授

## [主な意見]

- ・子どもを主体とし、高齢者を巻き込むような住民主導型の仕掛けが必要。
- ・セミナーの開催等により高齢者を組織化し、地域活動の担い手を増やしていくことが大事。
- ・例えば、団地などを実践の場として、学校などとも連携し、高齢者が子どもの地域活動を支えながら、一緒にコミュニティ活動ができるような仕組みが必要。
- ・これらの基本は、相互に認めあうこと。子どももおとなもすべての人々が自分がこの社会に居場所があると思えること、人のために役立っていると思えること。こういう関係をつくる施策が必要。

## 《第2部会：高齢者の働き方（人生100歳時代の生き方、働き方）》

リーダー：ニッセイ基礎研究所 前田主任研究員

## [主な意見]

- ・人生100歳時代のロールモデルが不在。若い世代が抱く将来への不安の解消、高齢者のセカンドライフの空洞化などが課題。
- ・例えば、若い世代の自己防衛策（100歳時代の生き方・働き方等）などのコンテンツの開発、企業などと連携しながら、現役世代の社会参加を実践・検証することで、高齢になっても活躍できるようなしくみが必要。

## 《第3部会：高齢者と地域社会（学びと活躍の場をつなぐしくみづくり）》

リーダー：ダイヤ高齢社会研究財団 澤岡主任研究員

## [主な意見]

- ・地域活動に消極的な人の社会参加を促すためにも、気軽に立ち寄れるような場づくりやワンストップで住まいに隣接する圏域も含めた地域参加の情報が入手できる場づくりが必要。
- ・地域のコミュニティスペースを実践の場に、高齢者が学びから、子どもをはじめとする多様な地域課題に主体的に関われるしくみが必要。



### (おわりに)

来年度は「しくみの稼動」の年として、県民一人ひとりが、生涯にわたり生き生きと暮らせる社会の実現に向けて、「大学発・政策提案制度」や「かながわボランティア活動推進基金21」による協働事業、大学等と連携したフィールドワークなどを実施していく。

こうしたことにより、当県では市町村や大学、企業やNPOなど、様々な主体の連携、つながりをさらに発展させながら、引き続き、かながわ人生100歳時代ネットワークを中心に「人生100歳時代」に向けた取組みを進めていく。